
さびしいリス / *Sabishii risu*

Madison Oswald

Publication Date

14-10-1900

License

This work is made available under a Exclusive rights in copyrighted work license and should only be used in accordance with that license.

Citation for this work (American Psychological Association 7th edition)

Oswald, M. (1900). さびしいリス / *Sabishii risu* (Version 1). University of Notre Dame.
<https://doi.org/10.7274/24824283.v1>

This work was downloaded from CurateND, the University of Notre Dame's institutional repository.

For more information about this work, to report or an issue, or to preserve and share your original work, please contact the CurateND team for assistance at curate@nd.edu.

そびしいリネ



マディソン・オズワルド

ノートルダム大学のキャンパスにはさびしいリスがいます。

そのリスの名前はパッチです。



家族と友達がいらないからさびしいです。

パッチは。パスクリライーストというりょうの
ちか 近くにある木に住んでいました。毎日、パッ
お チは起きて、ナッツやドングリを探して、早
は や く寝ます。



ほか 他^{ほか}のリスは人間^{にんげん}の食べ物^{たもの}を盗^{ぬす}みます
が、パッチは人間^{にんげん}が大きい^{だい}なので、
にんげん ぜんぜん人間^{にんげん}の周り^{まわ}に行きません。



ある秋の日、ドングリを探している時に、パッチはきれいなネックレスを見つけてきました。大学生のネックレスかもしれません。

パッチはあまり人間の物を触りませんが、そのネックレスは大きいダイヤモンドがありました。小さい時からパッチはダイヤモンドを欲しがっていました。

パッチはネックレスを巣に置きました。その後で、またドングリを探しました。





その年の冬はきびしいです。パ
ツチはあまり巢すを出ませんでし
た。毎日、少しナッツを食たべて、
寝ねました。パツチはさびしかった
ですが、ネックレスを見みると、
大丈夫になりました。
だいじょうぶ





でも、ある日、パッチは起きて、変な音を聞きました。
巣の下に、何かを探している犬を見ました。



犬が言いました。

「おはようございます。セーデー
です。よろしく願いします。」

パッチは何も言いませんでした。なに い

「すみませんが、お名前は？」なまえ

「・・・パッチです。」

「パッチ、しつれします。この間、あいだ

わたし か私を飼っている人はひとネckレスを落おと

しました。み見ましたか。」

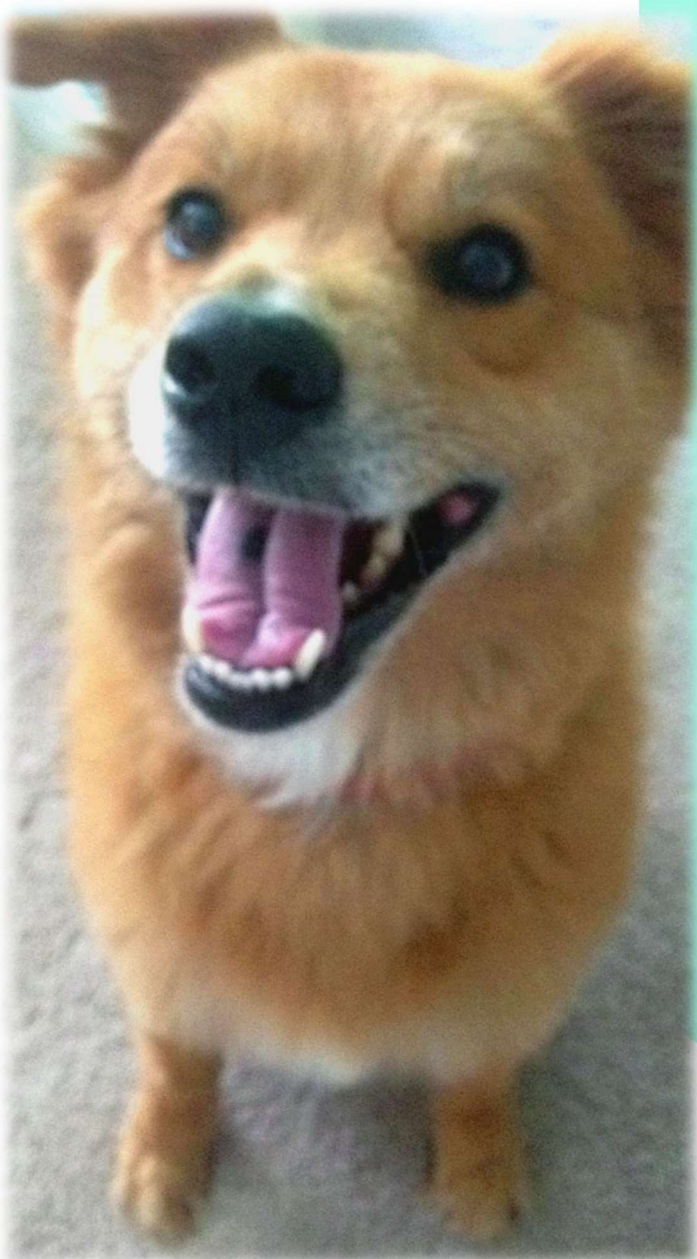
パッチはもう一度何も言いませんでした。いちどなに い

た。ドキドキしました。パッチの大切なたいせつ

ものはそのネckレスだけです。ネck

レスを返したくありません。かえ





でも、セーディーは巢すなかの中のネックレスを見みました。

「ああ、パッチはネックレスがありますか。もらえませんか。」

パッチは答こたえませんでした。

「ええ、どうしたんですか。大丈だいじょうぶ夫ですか。」

パッチは泣いて言いました。

「家族がいまません。友達がいまません。」

何もいけません。だから、このネックレスを返すことができません！」

セーデューはびっくりしました。

「ええ？家族がいまませんか。友達がいま

せんか。それはとても悲しいです。」

セーデューは本当に悲しそうです。パ

ッチは泣きました。



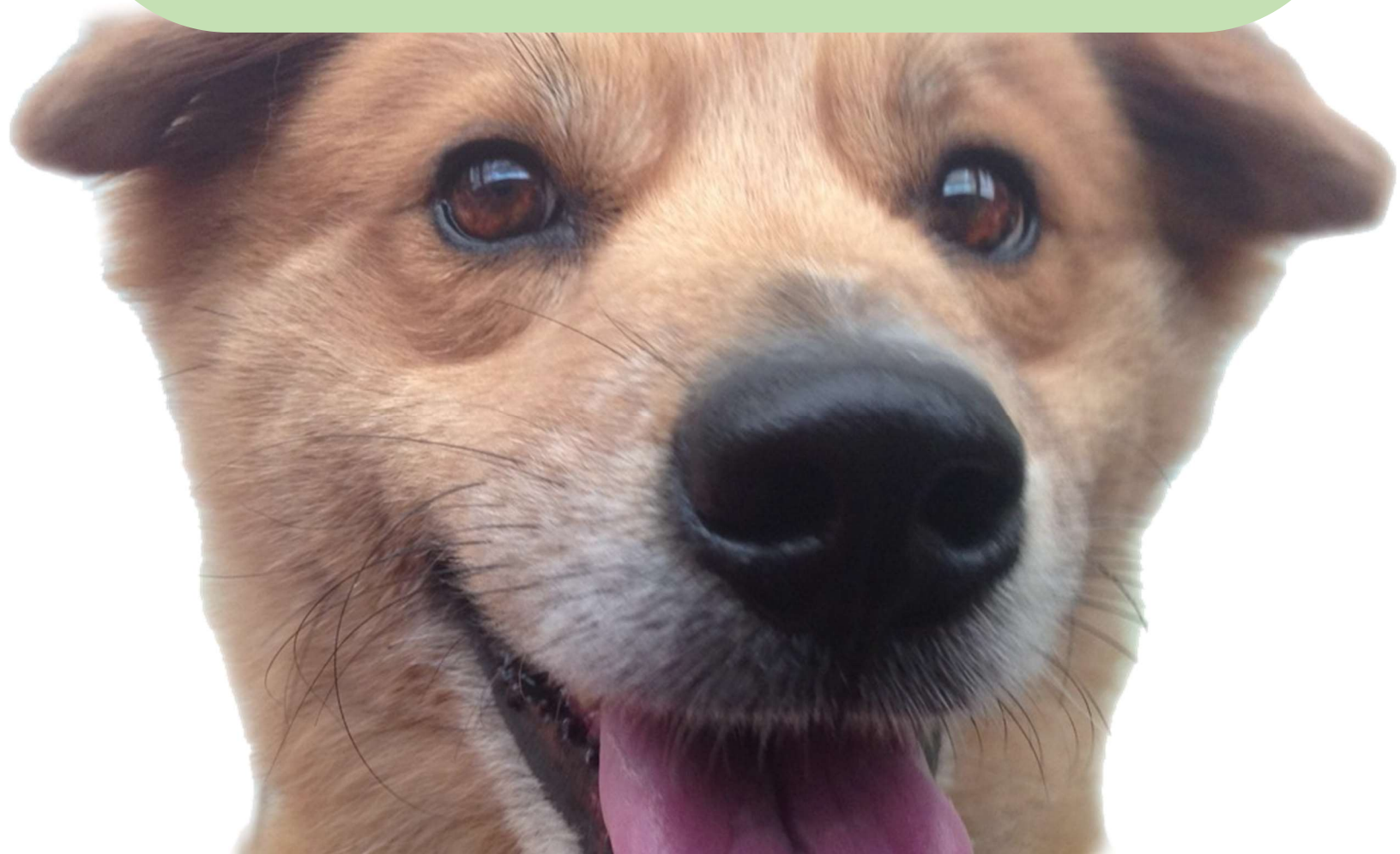
「じゃあ、これから私が毎日来て、パ
ッチと遊んだら、いつかネックレスをく
れませんか。」

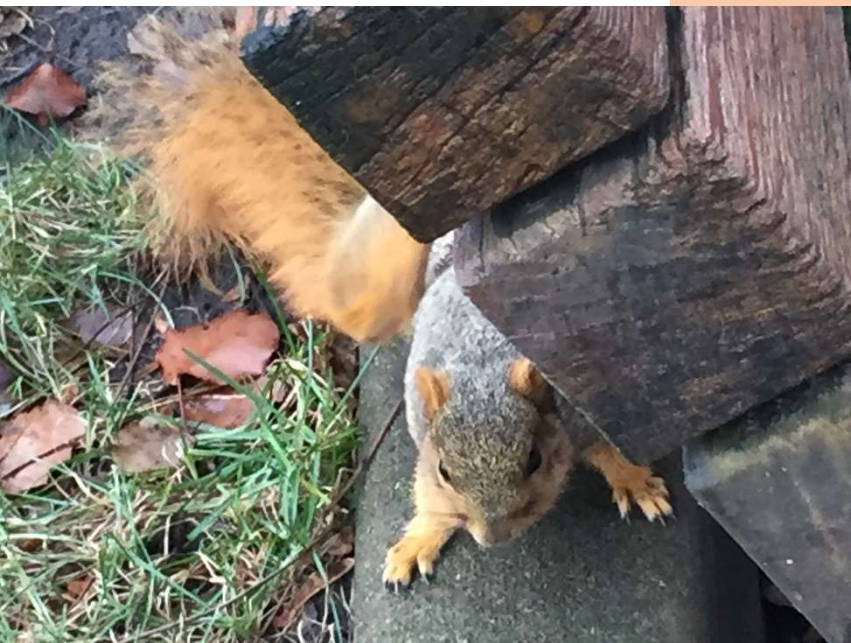
「本当ですか。毎日ここに来ます
か。」

「はい！楽しいことをしましょう
か。」

「そうしたら、いつかネックレスをあ
げます。」

「やった！これからよろしくお願
いします。」

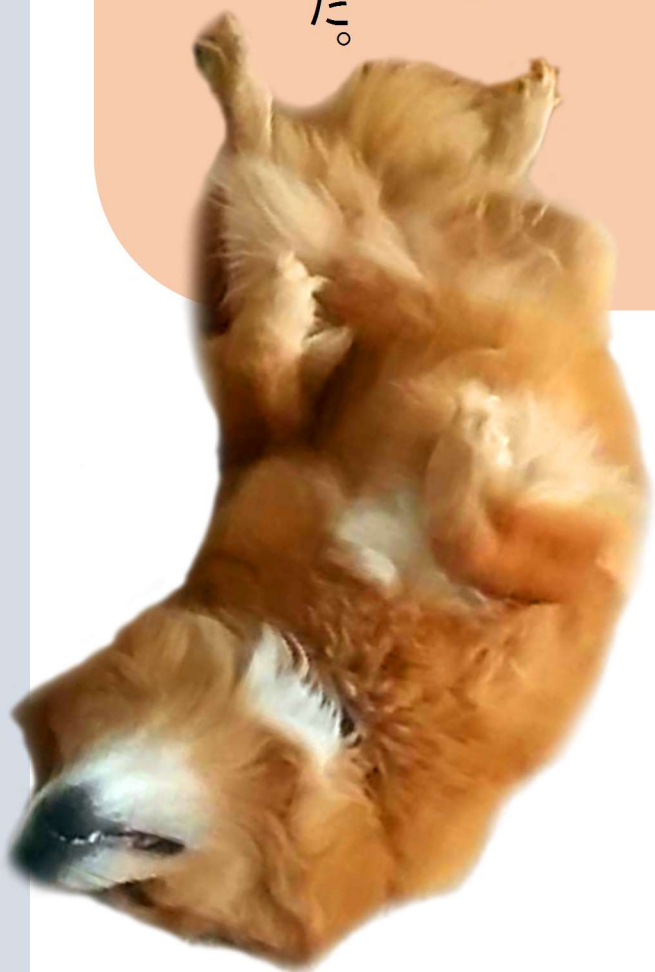




毎日、^{まいにち}セーデーは来^きました。

毎日、^{まいにち}パッチは楽^{たの}しみました。

毎日、^{まいにち}もっと嬉^{うれ}しくなりました。



すぐに春^{はる}が来^きました。今^{いま}、パッチはさびしく
ありませんでした。でも、まだネックレスを返^{かえ}
したくありません。ネックレスを返^{かえ}したら、セ
ーデーはいつも来^こないかもしれせん。

ある日、パッチはセーディーを飼っている人を見ました。やさしそうな女の人です。パッチは悲しくなりました。

セーディーが帰る前に、パッチが言いました。

「待ってください。」

巣からネckレスを持って来ました。セーディーにあげました。

「ああ、実はネckレスのことを忘れていました。ありがとうございます！」

夜から朝まで、パッチは心配しました。セーディーは大切な友達です。明日、また来るでしょうか。



つぎ ひ
次の日、パッチが起きると、セーデーの声が
き
聞こえました。

「パッチー！早く起きて！あそびましょう！」
はや お

これから、セーデーはいつもパッチの一番い
ともだち
い友達です。ぜんぜんさびしくありません。
いちばん

